

研修会報告

平成 30 年 3 月 7 日

文責：鎌田 将矢

研修会名：生物化学分析部門研修会

テーマ：「生化学検査担当者に求められるスキル」

開催日時：平成 30 年 2 月 24 日（土曜日）14：00～17：00

会場：東北大学医学部 臨床中講堂

<プログラム>

【講演】

生化学項目製品の設計開発とトラブルシューティング」

株式会社 シノテスト R&D センター 芳村 一 先生

【特別講演】

生物化学分析部門を取り巻く諸課題について

弘前大学医学附属病院 検査部 技師長 小島 佳也 先生

生涯教育点数：専門 20 点

参加者 会員 38 名、賛助会員 2 名、講師 2 名、実務委員 5 名、計 47 名

【内容】

今回の研修会は「生化学検査担当者に求められるスキル」をテーマとして、普段の業務に必要な知識とトラブルに遭遇した場合の考え方などを学びました。はじめに、株式会社シノテスト R&D センターの芳村一先生より、前半は生化学項目製品設計開発について、後半はトラブルシューティングについてご講演いただきました。現在、多くの生化学項目試薬はどのメーカーもほぼ同等の性能になってきていますが、用手法から自動分析装置へと移りゆく時代に各メーカーが凝らしてきた試行錯誤の経緯について説明して頂きました。後半は実際に起こったトラブル事例をお話いただき、ブラックボックスになりがちな分析装置内で起こっている反応をしっかりと理解しなければいけないと改めて感じさせられました。

特別講演では弘前大学医学附属病院検査部技師長の小島佳也先生より、生物化学分析部門が置かれている状況を実経験も交えつつご講演いただきました。生化学部門はオペレータ的な業務でモチベーションの維持が困難になりがちですが、検査結果の向こう側には必ず一人一人の患者さんがいることを意識して仕事をしていくことの大切さを感じさせられました。今はほとんどの施設で自動分析装置が導入されており、用手法の時代を知らない若い世代が現場に多くなってきて、検体を入れれば結果がでると考える人も出てきています。装置の中で起こっていることを理解し、スキルアップのための R-CPC や経験を重ねることで測定値が真値に近いかどうか判断できる”勘”を養えることができると感じさせら

れた研修会でした。

